

自昭和九年九月二十一日
至同十一月二十二日

軍縮問題ニ関スル帝國代表及在外使臣ノ
新聞記者ニ為セル談話 第一輯

序

本篇ハ海軍々縮問題ニ関シ帝国軍縮代表及在外本邦使臣カ新聞記者ニ対シ為セル談話等新聞紙上ニ掲載セラレタルモノヲ其儘摘録セルモノニシテ談話者ニ対シ一々確認ヲ経タルモノニ非ラス

目 次（情報部眞崎嘱託作成）

◎山本代表

一、東京出発ノ際ノ談話（九月二十一日）	五
一、晚香坡寄港ノ際新聞記者団ニ為セル説明（十月一日）	六
一、「シアトル」ニ於ケル新聞記者団ニ対スル声明（十月二一日）	六
一、紐育ニ於テ本邦記者団ニ為セル談話（十月七日）	八
一、紐育ニ於ケル米國記者団ニ対スル声明（十月八日）	九
一、紐育ニ於ケル記者団ニ対スル第二次声明（十月十日）	一
一、「サウザンプトン」到着ニ際シ東朝特派員ニ為セル談話（十月十六日）	一
一、「サウザンプトン」ヨリ「ロンドン」ニ至ル車中ニテ読売特派員ニ為セル談話（十月十六日）	一二
一、同右車中ニテ連合特派員ニ為セル談話（十月十六日）	一三
一、在英大使館ニ於ケル内外新聞記者団トノ会談（十月十七日）	一四
一、倫敦ニ於テ新聞記者ニ為セル談話（十月十九日）	一七
一、東日特派員ニ為セル談話（十月二十一日）	一七

- 一、日英会談前日為セル談話（十月二十二日）……………一八
 一、東朝特派員二為セル談話（十月二十二日）……………一八
 一、日英第一次會談後為セル談話（十月二十三日）……………一九
 一、日米第一次會談後為セル談話（十月二十四日）……………一九
 一、東日特派員二為セル談話（十月二十四日）……………一九
 一、日英第二次會談後電通特派員二為セル談話（十月二十六日）……………二一
 一、日英第二次會談後聯合特派員二為セル談話（十月二十六日）……………二一
 一、日英技術委員會終了後為セル談話（十月二十六日）……………二二
 一、倫敦ヨリノ対日「ラヂオ」放送（十月二十七日）……………二三
 一、日米第二次會談後為セル談話（十月二十九日）……………二三
 一、日米第三次會談ノ際ノ應答（十月三十一日）……………二四
 一、日米第三次會談ノ際ノ應答（十月三十一日）……………二四
 一、日米第三次會談ノ際ノ兩代表ノ應答（十月三十一日）……………二六
 一、日米第三次會談後為セル談話（十月三十一日）……………二六
 一、米國記者團二對スル声明（十一月六日）……………二七
 一、米國合同通信社記者二為セル談話（十一月六日）……………二八
 一、米國合同通信社記者二為セル談話（十一月六日）……………二八
- ◎松平代表
- 一、日英第四次會談後為セル談話（十一月七日）……………二九
 一、新聞記者團二為セル談話（十一月八日）……………二九
 一、新聞記者團二為セル談話（十一月十日）……………三〇
 一、外人記者團二對スル声明（十一月二十日）……………三〇
 一、日英會談前日為セル談話（十月二十二日）……………三一
 一、日英第一次會談後為セル談話（十月二十三日）……………三一
 一、日英第一次會談後連合特派員二為セル談話（十月二十四日）……………三一
 一、日英第一次會談後電通特派員二為セル談話（十月二十四日）……………三一
 一、日英第二次會談後為セル談話（十月二十六日）……………三一
 一、倫敦ヨリノ対日「ラヂオ」放送（十月二十七日）……………三三
 一、日米第二次會談後為セル談話（十月二十九日）……………三三
 一、日米第三次會談後為セル談話（十月三十一日）……………三四
 一、「サイモン」英外相ト會談後電通特派員二為セル談話（十一月十九日）……………三四
 一、「サイモン」英外相ト會談後連合特派員二為セル談話（十一月十九日）……………三五
 一、「サイモン」外相ト第二次會談後為セル談話（十一月二十一日）……………三五

- 一、「クレギー」參事官ト會談後為セル談話（十一月二十二日）三五
 ○齋藤大使

- 一、帰任ノ前夜東京ニ於テ為セル談話（十月十日）三六
 一、同右（二）三七
 一、横浜出帆ノ際ノ談話（十月十一日）三八
 一、桑港到着ノ際為セル談話（十月二十四日）三九
 一、華府ニ於テ新聞記者団トノ問答（十月二十四日）三九
 一、同右（十月三十日）四〇
 一、同右（十月三十日）四一
 一、「ハル」國務長官ト會見後新聞記者団ニ為セル談話（十一月十五日）四一
 一、「ハル」國務長官ト會見後新聞記者団ニ為セル談話（十一月十五日）四二

山本少將九月二十一日東京出発ノ際ノ談話

自分カ帝国代表ニ決定シテ以来全国各方面カラ連日ノヤウニ種々鄭重ナ送別ノ言葉ヤ懇篤ナ激励ノ辞ヲ寄セラレ又只今東京駅出発ノ際ハ熱誠溢ル様ナオ見送リヲ受ケ自分トシテ全ク感激ニ堪ヘナイ。殊ニ自分ノタメニ一週間ニ亘ル断食ノ苦行ヲヤツテ成功ヲ祈ツテ下サレタ人カアツタコトナトハ忘ルルコトノ出来ナイ深イ感銘ヲ受ケタ。自分ハ今祖国ヲ出発スルニ当ツテ特ニ語ルヘキコトハナイ。唯政府ノ訓令ニ基キ公正妥当ナル我カ国民의信念ヲ列国ニ了解セシムルタメニ自分ノ「ベスト」ヲ尽ス覺悟テアルコトヲ申上ケルタケテアル。自分ハ尊敬スル松平駐英大使ト共ニ日本ノ主張ノ貫徹ノタメニ國民ノ期待ヲ裏切ルコトノナイ様努力スルツモリテアル。自分カ衷心カラ希望スルトコロハ現在ノ熱烈ナル拳国一致ノ支援力會議ノ最後ノ瞬間迄持続スルコトテアル。自分ハ帝国政府ノ今回ノ根本方針ハ公正且妥当ニシテ速カニ列国ニ諒解サレ同時ニ世界ノ輿論ニ容認サルルテアラウコトヲ確信シテキル。自分ノ今ノ心持ハ武者振ヒシテ戰ヒノ首途ニ立ツノト全ク同シテアル。コレカライヨイヨ「ロンドン」ニ赴キ全日本ノ重望ヲ負ウテ帝国ノ主張貫徹ノ為ニ奮闘スルノテアルカ、コレハ自分トシテハ劍ヲトツテ祖国ノ難ヲ救フヘキ戰場ニ赴クノト異ルトコロハナイノテアル。尚自分ノ旅程ハ「ワシントン」ニ寄ラス「ニューヨーク」ニ一泊シテ直ニ大西洋ヲ渡ルコトニナツテキルカコレハ單ナル日程ノ都合ニヨルモノテ別ニ意味ハナイ米國經由ノ道ヲ選ンテ首都「ワシントン」ニ立ツテキルナイノハ一日モ早ク「ロンドン」ニ着ク為ニモツトモ早イ便船ヲ選フコトニナツタ為テアル。

山本少将十月一日「ヴァンクーヴァー」寄港ノ際新聞記者団ニ対スル説明

帝国政府ハ国際政局ニ於ケル自國ノ義務ヲ十分認識シテ居リ且世界海軍国ノ一トシテ軍備ノ縮少ニ応スルニ吝テナイ。余ハ現下ノ情勢ニ於テ軍備ノ実質的縮少ヲ実行スルコトカ決シテ不可能テナイト確信スル。世界各国殊ニ大海軍諸國カ各自國軍備ノ徹底的縮減ヲ断行セネハナラヌト云フノカ帝国海軍不動ノ信念テアル。此ノ目標ヲ実現スル為ニ帝国政府ハ欣然自國ノ役割ヲ果ステアラウ。帝国政府ハ国防ノ安全力確保セラレネハナラヌ事ヲ確信スルカ、国防ノ安全ヲ確保スルニ必要ナ以上ノ軍備ハ各國トモ撤廃セネハナラヌ。

山本少将十月一日「シアトル」ニ於テ新聞記者団ニ声明

帝国政府ハ近ク英米両国政府ニ對シ現行海軍諸條約廢棄ノ決定ヲ通告シ且「国防ノ安全感確保ニ必要ナ最少限度ノ軍備」ヲ基調トシタ新海軍縮少案ヲ提示スルテアラウ。帝国政府カ愈「ワシントン」条約廢棄ノ希望ヲ通告スレハ恐ラク米国ニ多大ノ衝動ヲ与ヘ帝国政府ト英米両国トノ関係ニ幾多悪影響ヲ及ホスコトナルカモ知レナイ然シ仮リニ英米両国トノ間ニ多少ノ紛議カ持上ルコトカアツテモ帝国政府カ新タナ軍縮案ヲ提出シ英米両国カ「ワシントン」条約廢棄ニ関スル帝国政府ノ真意ヲ諒解スルニ至レハ一切ノ誤解ハ忽チ解消スルテアラウ。帝国政府ト英米両国トノ国交カ疎隔ヲ來スヤウナコトカアルトシテモ疎隔ハ全ク一時的ニ過キナイコトヲ確信スル。ソモソモ「ワシントン」条約ニハ何等ノ理論的根拠ナク偶々條約締結當時日英米三

國カ保有シテキタ海軍力ヲ基準トシテ三国海軍力ノ比率ヲ決定シタニ過キナイ。従ツテ「ワシントン」条約ノ体制ハ世界ノ平和ヲ恒久的基礎ニ確保スル所以テハナイ。帝国政府カ「ワシントン」条約ノ廢棄ヲ要求スル所以ハ実ニココニ存スル。帝国政府ノ方針ハ出来得ル限り攻撃的武器ヲ縮減スルニアリイスレノ國家モ自己國国防ノ安全ヲ保障スルニ十分ナ軍備ノ維持ヲ承認サレルト共ニ如何ナル國家モ他国ニ脅威ヲ与ヘル様ナ軍備ヲ保有シナイコトコレ帝国不動ノ理想テアル。

記者団ヨリ陸軍省ノ「パンフレット」ニツキ質問アリ。

答『恐ラク公式ノ文書テハアルマイ。何レニセヨ余ノ携行スル政府ノ訓令乃至ハ余ノ「ロンドン」ニ於ケル使命ハ右「パンフレット」ニヨツテ何等変更ヲ受ケヌ』

問『米国ノ陸軍海軍飛行隊並ニ潛水艦隊カ「アラスカ」並ニ「アリューシヤン」群島ヲ測量シタリ一九三五年「アラスカ」方面テ海軍大演習ヲ挙行スルコトニツイテトウ考ヘテキルカ』

答『日本人力「アラスカ」並ニ「アリューシヤン」方面ニ於ケル米国連合艦隊ノ演習ヤ活動ニ関心ヲ持ツテキルノハ勿論タカ日本人カ不当ニ神経ヲ昂ラセテキル訳テハ決シテナイ。連合艦隊カ「アラスカ」洋上テ大演習ヲ挙行スルコトハ米国海軍當然ノ権利ニ基クモノト思ツテキル。帝国海軍当局ハ寧ロ米国政府カ演習測量ニ努メテキルノハ賢明ナ遣リ方タト考ヘテキル』

尚記者団ヨリ日露両国ノ關係ニ就イテ相当執拗ニ質問シタリ。

答『戦争ニ訴ヘネハ解決出来ヌ様ナ紛擾ハ一ツモ日露両国間ニ無イ』

山本少将十月七日「ニューヨーク」到着、往訪ノ日本人記者ニ対スル談話

今回ノ予備会商カ单ニ事務的ニ終ルモノナラ日本ハ何モ腹ヲ打明ケル必要ハナイ。自分ハ政府ノ確固タル案ヲ持ツテ居ルカソレヲ一度ニ全部出スワケノモノテハナク、ソノ時ソノ時ノ議題ノ性質ニ応シテ適時ニ処理スルツモリタ。會議ハ恐ラク難「コース」ヲ辿ルテアラウカ必シモ前途ヲ悲観シテ居ナイ。日本ハ軍縮ノ精神ヲ達成スルタメアル程度ノ犠牲モ覺悟シテ居ル。自分ハコノ大方針ニモトツイテコレヲ英、米ニ諒解セシムヘクアラユル努力ヲ払フツモリタ。勿論各国ノ立場ハ最初カラ一致スルモノトハ考ヘラレヌ。シカシソレタカラトイツテ、スクニ尻ヲマクツテ帰ルナトイフホト日本ノ腰ハ弱クナイ。相手側カワカラネハワカルマテ説明シテヤルノカワレラノ責任タト信シテキル。幸ヒ「アメリカ」カラ作戦部長カ出ルトノコトタカラ話シ甲斐カアルトイフモノタ。一部ニハ予備会商タケテ本會議ハ開キ得ナイトイフ説カアルカカカル大切ナ問題ヲ有耶無耶ノウチニ葬リ去ルヘキモノテハナイ。判然トシタ形テ協定出来ルマテ押シ進ムヘキコトト信スル。

問『「アメリカ」側カラ日本ノ直接兵力ノ総体的増加ヲ認メル代償トシテ太平洋ノ防備制限撤廃ヲ主張スル場合日本ノ態度如何』

答『「アメリカ」ノ太平洋防備ハ間接的ニ兵力ノ増加ヲ意味スルカモ知レヌカ日本トシテハ深ク意トシテヰナイ。』

山本少将十月八日「ニューヨーク」ニ於テ「アメリカ」記者団ニ対スル声明

一、「ワシントン」条約ヲ廢棄シ新シキ海軍軍縮ヲ実現セントスル日本ノ方針ハ実ハ実ニ時代ノ変化カ然ラシメタモノテアル。「ワシントン」条約締結後既ニ十三年ノ歲月ヲ経過シ世界ノ情勢ハ実ニ著シキ変遷ヲ生シ、單ニ政治的ニ見テ変遷ヲ告ゲテ居ルノミナラス海軍関係ノ事態ノ変遷ニ於テモ同条約ハ最早ヤ全然現在ノ諸事情ニ適合シナイモノト考ヘル。コノ変化ニ忠実ニ着目スル者ハオノツト日本ノ主張ノ合理妥当性ヲ理解スルテアラウ。

一、日本ハ軍縮ヲ歓迎シ最高度軍備国カ自ラ発議シテ其ノ範ヲ垂レルヘキテアルト信シテ居ル。吾人ハ軍備ニ関シ『均勢』(パリチ)ナル語ハ使ツタコトカナイ。タタ安全保障(セキユウリチ)ヲ云フノミテアル。アラユル国ノ軍備ハソノ安全感ヲ確保スルニ必要ナ最低限度マテ引下ケラレネハナラヌモノテアルト信スル。

一、海軍力引下ケニ当ツテハ進攻的武器ノ縮減ヲ以テ最モ緊要トスルコノ故ニ吾人ハ主力艦及ヒ航空母艦ハソノ進攻的性質ニ鑑ミ当然大削減セラルヘキモノテアルト信スル。

一、支那カ他國ノ侵略ヲ受ケルカ如キ情勢ハ想像ニ描クコトサヘ出来ナイカシカシモシ万一千カル支那侵略カ実現スルコトアリトスレハ日本ハコレヲ黙ツテ坐視シテキルワケニ行カヌコトハ勿論テアル。

一、「アリューシヤン」列島ニ於テ「アメリカ」海軍カ來年夏演習ヲ計画シテ居ルコトハ「アメリカ」海軍ノ

対日示威トハ考ヘナイ。コレハ「アメリカ」海軍ノ所管事項ト考ヘル。

一、北鉄譲渡交渉ノ成立ハ満州国内ノ情勢及ヒ日露関係好転ヲ齎ラステアラウ。

一、日本ノ立場カラ見テ「フイリツピン」ノ独立ハ日本ノ位置ノ関係スル範囲内テハ極東ノ情勢ニ何等重大ナ影響ハ与ヘナイト信スル。

一、「ジエラルト・ナイ」氏ヲ委員長トスル上院ノ軍需工業調査委員会ハ二、三日本トノ取引ニ關スル秘密事項ヲ暴露シテキルカコレハ全ク「アメリカ」ノ国内問題テアルト信スル、然シナカラ全ク企業上ノ利益ヲ目的トル軍需品販売ノ統制ヲ政府カ試ミントスルノハ既ニ日本カシハシハ実施シタトコロテ同感ノ念ヲ禁シ得ナイ。

一、前「アメリカ」航空司令長官「ウイリアム・ミッチエル」將軍カ日本ハ「アメリカ」ノ敵テアリ、「アメリカ」ハ又日本ノ敵テアルコトヲ強調シ空軍ノ拡張ヲ説イテ居ルノニハ全ク抱懐スル意見カ異ルト申シ上ケタイ。

一、人間カ魚雷ニ搭上シテコレヲ標的マテ操縦スルト云フ肉弾魚雷ヲ日本海軍カ使用シテキルトノ報道ニ対シテハ私ノ全然閑知セヌコトテサウ云フモノカアレハ知リタイモノテアル。又日本ノ漁業家カ水中沈下用架策ノ使用許可ヲ申請シタノハ事実タカコレカ軍事用ニ使用シ得ルカ否カハ疑問テアル。

山本少将十月十日「ニューヨーク」ニ於テ第二次声明

専ラ偶然ノ事情ニ基ク日英米三国海軍力ニ関スル五・五・三ノ現行比率ハ撤廃サレネハナラヌ。コノ見地カラ日本ハ「ワシントン」条約ノ廢棄ヲ要求スルテアラウ。日本カ「ロンドン」會議ニオイテ要求スル所ト比率主義ニ基ク現行条約ノ諸条項トハ到底相容レナイカラタ。然シ「ワシントン」条約ノ廢棄ハ「ロンドン」会談ノ結果トシテ断行サレル訳テハナイ。

英米両国トノ平等要求ニ言及シテ曰ク、

英米両国トノ均勢「パリティ」ヲ要求スルカトイフノカ。日本ノ要求ヲ均勢要求ト解スルコトモ出来ヨウ。然シ自分ハ均勢トイフ言葉ヲ用ヒナイ。帝国政府ノ欲スルトコロハ国防ノ安全ヲ保障スルニ足ル海軍力ニ在リ他ノ各国ニ対シテモ同様ノ権利ヲ許与スヘキコトヲ主張スルノタ。

山本少将十月十六日「サウザンプトン」到着ニ際シ「ベレンガリア」号「サロン」ニテ（東朝報）

今回ノ予備會議テハ多クノ困難ニ直面スルコトト思ハレルカ、予ハ全力ヲ尽シテコレヲ成功ニ導キタイト思ツテキル。既ニ「ワシントン」条約ノ廢棄声明ヲ決定シタ今日日本ハ単ナル比率上ノ変更位テ妥協スルヤウナコトハセヌ。英米両国ノ不満モ比率主義ニ起因シテキルノテハナイカ。日本ハ多クヲ求メルノテハナイ。

国防ノ安全感確保ヲ期スル以外何モノモナイ。

一一二

山本少将十月十六日「サウザンプトン」ヨリ「ロンドン」ニ至ル車中ニテ（読売報）

会議カ多クノ難関ニ逢着スルテアラウトハ勿論予期シテキルカ日本代表部ハコレラノ諸困難ヲ克服シテ会議ヲ成功ニ導クヘクアラユル努力ヲ払フ堅イ決意ヲ有シテキル。

併シ乍ラ如何ナル軍縮案ニモセヨソレカ比率・主義ニ基クモノテアル以上協定ノ成立ハ絶望ノ外無イコトニナルタラウ。日本ハ比率・主義ニハ絶対反対テ一切ノ討議ニ於テ比率・主義ノ撤去ヲ要望スル苦テアル。日本カ飽ク迄モ比率主義ニ反対スル以上軍縮ノ趣旨ヲ徹底セシムル為ニハ終局ニ於テ総頃數ノ引下ケニ落着クノテハアルマイカト思フ。会議ノ形式ハ日英、英米及日米会談ト云フ如キ個別的ノ話合ヒテ進行スルノヲ有利トスヘク、三国代表カ一堂ニ会合シテ議論ヲ戰ハスカ如キコトハ期待サレテヰナイ。

果シテ政治問題カ上程サルルカトウカハ予ノ与リ知ラナイトコロテアルカ仮リニコレカ問題トナツテ来レハ軍縮自体ノ技術的問題トハ別個ニ並行シテ商議サルルコトニナルテアラウ。

何レニシテモ日本ハ海軍ニ閑スル限り対英米ト均等待遇ヲ主張スルモノテアル。

山本少将十月十六日「サウザンプトン」ヨリ「ロンドン」ニ至ル車中ニ於テ（連合報）

華府海軍条約ハ全ク偶然ノ所産ニ過キナイ。「ワシントン」会議當時偶々各国カ保有シテ居タ所謂現有勢力ヲ基調ニ海軍力ノ比率ヲ決定シタモノテ何等首肯スヘキ理論的根拠ヲ持ツテ居ナイ。従ツテ帝国政府ハ近ク英米両国政府ニ對シテ現行海軍条約廃棄ノ決定ヲ通告スル方針テアル。尤モ通告ノ時期ハ判ラナイカ、右通告ハ來ルヘキ予備会談トハ直接關係ナク別個ニ斷行サレルコトナラウ。華府海軍条約ハ偶然的ナ事情ヲ基礎トシタ点ニ於テ既ニ重大ナル欠陥ヲ持ツテ居ルカ更ニ同條約ノ基準タル艦種別比率主義ハ各國国防上ノ必要ヲ無視シタモノテアリ、特ニ各國ノ海軍力ニ明確ニ差等ヲ付シテ居ル点ニ於テ帝国政府トシテハ到底首肯シ得ナイ。此等現行海軍条約ノ欠陥ニ鑑ミ帝国政府ハ來ルヘキ予備会談ニ於テ一切ノ当事国ニ公正不偏テ然モ各國国防ノ安全ヲ保障スルト共ニ軍備ノ実質的縮減ヲ實現スル新軍縮方式ヲ提示スルテアラウ。帝国政府ハ特ニ攻撃的兵力ノ縮減ヲ期待スルカ此ノ新方式ニ依リ各國カ自國国防ノ安全ヲ保障サレルト共ニ如何ナル國家ノ軍備モ他国ニ脅威ヲ与ヘルコトカ無クナルタラウコトヲ確信スル。

來ルヘキ予備会談カ相當困難ナノハ十分覚悟シテ居ルカ同時ニ帝国政府ノ新軍縮方式カ公明正大、世界平和ニ貢献シ且ツ各國ノ国防ヲ安全ニ確保スル正論ナルコトヲ確信シテ居ルカラ余ハ飽ク迄英米両国ヲ説イテ正論ニ聽從セシメ満足ナル協定ヲ達成スル決心テアル。

尤モ国際折衝テアル以上或ル程度ノ互讓ハ已ムヲ得マイカ帝国政府トシテハ国防ノ平等權ヲ確立シ比率主義ノ代リニ守ルニ足リ攻ムルニ不充分ナ程度ノ実質的軍縮ヲ実現スル根本原則ニ就テハ絶対ニ譲歩出来ナイ。従ツテ今度ノ予備会談テハ順序トシテ先ツ根本大綱カラ話ヲ始メルコトナラウ。尤モ話ノ進ムニツレ具体的の問題カ審議サレルコトトナラウカ交渉ノ進メ方其ノ他万事松平大使ト相談シタ上タ。米国政府カ現行海軍力比率ノ変更ニ反対シテ居ルコトハヨク承知シテ居ルカ余ハ日英米三国カ平等ニ最大限ノ軍縮ヲ実行シテ何故ニ米国タケカ自国国防ノ安全ヲ脅カサレルカヲ反問シテヤル積リタ。兎ニ角大イニ努力スル。

山本少将十月十七日「ロンドン」帝国大使館ニ於ケル内外新聞記者トノ会談（連合報）

問『滿州國カ成立シタ結果極東ノ情勢延イテハ軍縮問題ハトウイフ影響ヲ受ケタカ』

答『滿州國ノ建國テ極東關係カ複雜トナリ帝国海軍トシテモコノ点ニツキ充分考慮セナラナクナツタ。然シ滿州國政府自身カ近キ将来海軍力ヲ整備スルトハ考エテヰナイ。』

問『予備会談テ政治問題ヲ討議スルノカ』

答『会談ハ専ラ海軍問題ニ限定サレルト心得テヰル。』

問『太平洋防備制限問題ハトウナルカ』

答『日本代表部トシテハ敢テ討議ヲ希望スル訳テハナイカ、多分防備制限問題カ予備会談ニ出テ来ルト思カ。』

フ。』

問『日本代表ハ比島ノ中立ニ賛成スルカ』

答『専ラ米国ノ国内問題テ、日本海軍士官トシテハ何等意見ヲ持ツテヰナイ。』

問『英帝国ノ範囲カ厖大ナノニ鑑ミ英帝国カ日本政府ニ比シヨリ強力ナ海軍力ヲ必要トスルコトヲ認メルカ。』

答『帝国政府ノ主張ハ各國カ国防ノ安全感ヲ満足セシメルニ足リ、他国ヲ脅威シナイ最少限度ノ軍備ヲ持ツヘキヲ基礎トスル故帝国政府ノ主張ヲ受諾セハ、英國モ脅威ヲ感シナイ筈タ。』

問『日本政府ハ比率主義ヲ廢シ總噸数主義ニ拠ラウトスルノカ』

答『左様ニ解釈サレナイコトモナイ』

問『比率主義廃止ノ理由如何』

答『各国ノ国防権ニ差等比率ヲ設ケ右比率テ縛ル主義ニ対シテハ帝国政府ハ絶対反対ナノタ。』

問『日本政府ノ主張ハ国防権ノ均等カ噸數ノ均等カ』

答『国防権ノ均等ハ帝國政府ノ根本主張テ噸數其ノ他ノ数字ハ予備会談テ討議シヨウトイフノタ。英國政府ハ多數ノ巡洋艦ヲ保有シ度イシ、米国政府ハ大艦主義ヲ固執スルトイフ具合ニ各國国防上ノ必要カ違フカラ簡単ナ数字テ比率ヲ定メルコトハ不合理タ。』

問『日本政府ノ必要トスル艦種ハ如何』

答『具体的ニハ言ヘヌカ潜水艦等ソノ一ツタ。』

問『「シンガポール」要塞ニ対スル日本政府ノ態度ハ』

答『勿論歓迎シテ居ナイカ、英國カ自國主権ノ範囲内テ要塞ヲ築クノテ別ニ神経過敏トナツテ居ナイ。』

問『日本政府ノ軍縮新方式ニハ空軍ノ制限ヲ含ムカ』

答『航空母艦ノ問題ハ勿論出ルカ、空軍ノ組織ハ各國ソレ々々違フカラ、海軍縮少會議テ空軍問題ヲ討議スルコトハ出来ナイト思フ。』

問『何故航空母艦ノ廢止ヲ主張スルカ』

答『最モ攻撃的ナ武器ト考ヘルカラタ。』

問『潜水艦ハ攻撃的武器トハ考ヘヌカ』

答『断シテ左様考ヘナイ。』

問『米国政府カ「アリューシヤン」群島ニ防備ヲ施スノニ対シテハ「シンガポール」要塞ト同様ニ考ヘルカ』

答『同群島ハ「ワシントン」条約ノ防備制限範囲内ニ属スルカラ「ワシントン」条約カ失効スルマテハ米国政府モ施設ヲ加ヘルコトカ出来ヌハスタ。』

問『予備会談ヲ円卓會議ノ形式トスル案ニ賛成スルカ』

答『二国交渉ニヨルモノト諒解シテ「ロンドン」ヘヤツテ来タ。』

問『海軍力比率ノ廢止ハ「ワシントン」条約廢棄ノ手段ニヨラス何等カノ方法テ実現出来ヌカ』

答『出来ナイ。』

問『戦艦航空母艦ヲ別項ノ一「グループ」トシ、ソノ他ノ艦種タケニ總「トン」數主義ヲ適用スル方法ハ』

答『英米両国専門家ト話合ツタ上テナケレハ何トモイヘヌ。』

問『条約廢棄後建艦競争ヲ避ケル用意カアルカ』

答『建艦競争ハ各国民ノ不幸タカラ極力避ケネハナラヌ。関係各國政府トモ互讓ノ精神ニ依リ円満諒解ヲ遂

ケルコトニ努力スルモノト確信スル。』

山本少将十月十九日「ロンドン」ニテ予備会談ノ形式ニツイテノ談話

既ニ代表部ノ肚ハ決マツテキルノタカラ円卓會議テモ何テモイイカサウナレハ初メカラ袴着ケティフコトニモ自然角立ツカトウセ言フ事タケハ云ハネハナラナイノタカラ結局円卓會議トイフコトニナルカモ知レヌ。ソノ時ハ日英米三国ノミノ円卓會議ニ同意スルカ更ニ伊仏ヲ加ヘタ五国全部ノ円卓會議ヲ主張スルカワカラナイ。

山本少将十月二十一日「ロンドン」、「グロヴナー・ハウス」ニテ、東日記者ニ対ス
ル談話

日本ノ方針ハ既ニ内外ニ声明シテアリ新タニ話スコトハ別ニナイ。如何ナル提案ヲ何時如何ニシテナスヤハ

未タ大使ト打合セ中テアル。会議ニ来タ以上何時迄モ外交辞令ノ交換ハカリヤツテハヰラレヌ。今度ノ交渉ヲ悲観的ニ見ルモノカ多数アルラシイカマタ何處トモ話シテヰナイノニサウ早ク見越シヲツケルコトハ出来ナイ。米國代表モ我等モココニ来タ以上ハ三国テユツクリト話合ハネハナラヌ。初カラ決裂ト分ツテキルナラ、誰モ出掛ケテ來ハシマイ。

山本少将十月二十一日（日英会談ノ前日）

会談ニ対スル當方ノ決心ハ命ヲ受ケタ時既ニ出来テキル。我カ大方針ハ内外テ屢々表明シタシ、手ハ全部世界ニ公開シタヤウナモノタ。ソレタケニ吾々ノ立場ハ公明正大テ堂々ト所信ニ直進シ國民的願望ノ貫徹ニ努力ノミテアル。日本ハコノ正当ナ主張ニ基キ飽ク迄話ヲマトメル希望ヲ持ツテキルカコレニ対シ英、米両國カ如何ナル態度、如何ナル案テ來ルカ、吾々ハ英米側ノ決心カ聞キタイノタ。困難ハ無論アルカコチラモ肚カ決ツテキルカラ何カ來ヤウトヒクトモセヌ。兎ニ角大イニヤル積リタ。

山本少将十月二十二日夜「グローヴナー・ホテル」ニテ、東朝記者ニ対スル談話

ナ一二今ニナツテ用意スルコトハナイ。覚悟ハ大命ヲ挙授シタ時ニツイテ居ル。用意ハ既ニ日本出発ノ際ニ整ヘテ居ル。二十三日ノ会合テハ久シ振りニ誰憚ラス言ヒタイ事カ言ヘルカラ肩ノ凝りカ取レル。内外新聞記者連ニ聞カレテ大分練習カ積ンテ居ルシ、今迄ノ様ニ考ヘ考ヘアチコチニ遠慮スル必要モナイカラ樂ナモテアル。

ノタ。

山本少将十月二十三日日英第一次会談後ノ談話

今回ノ軍縮會議カ有望テアルトカ悲観スヘキテアルトカハ未タ一回ノ会見ノミテハ全然見当カツカナイ。双方如何ナル考テアルカハ十分知ル程度ニサヘ達シテ居ラヌ。マタホンノ輪廓タケヲ話シ合ツタ訳テ、コレカラ逐次実体ニ接近シテ行クト云フ訳タ。我々ハ我々ノ真意ヲ飽ク迄理解サセルト云フ意氣込テ邁進スルノミテアル。

山本少将十月二十四日日米第一次会談後ノ談話

今日ハ主トシテ松平「デヴィス」兩代表間ニ質疑応答カ行ハレ専門家間ノ応答ト云フトコロ迄未タ行カナカツタ。自分モ「スタンドレー」提督ノ質問ニ答ヘ二言三言シヤヘツタノミタ。専門家ノ問題ニナレハ相当問題モアラウカ未タ話ハ総論ノ域ヲ脱セスオ話シスルコトモナイ。

山本少将十月二十四日「グローヴナー・ハウス」ニテ東日記者ニ対スル談話

ソウタネ、マタ日本側カ鞠ノ蓋ヲ開ケタトイフハカリノトコロタカラ會議ノ前途ニツイテハ何モイヘナイ見当カツカヌトコロタ。アト一、二回会ヘハ概ネソノ見当ハツクツモリタ。併シ人間トイフモノハ別ニ大シテ

偉イモノモ馬鹿ナモノモヰナイモノタヨ。今度ノ両国ノ代表モヤツパリ同様ノトコロタ。別ニコレニハカナハヌソ等ト恐レルモノハ一人モヰナイ。タタ「マクドナルド」首相タケハ敬服ノホカハナイ。多年労働争議テ練リアケタモノタラウ。人間カ出来テキル。イツモ和ヤカナ顔ヲシテ如何ニモユトリカアル。

僕ハイツモミンナノ顔色ニ注意シテキルカ僕ノ話カ主要ナ点ニ触レルト中ニハ「ギヨツ」トシテ緊張ヲ顔色ニ出ス代表モアルカ「マクドナルド」首相タケハ多分カレカ困ルタラウト思フヤウナコトヲ言ツテモ「ニコリ」トシテ「遠慮ハイラヌ、モツト思フコトヲオツシヤイ」ト後輩ヲイタワルトイフ態度タ。頭ノ鋭イ点テハ「サイモン」外相ノ方カ勝レテキルタラウ。シカシ僕ハヤツパリコノ会商関係者中テハ「マクドナルド」首相カ一番図抜ケタ政治家タトツク々々思ツタ。

今日マテノトコロ彼トイキマイテ取組ムトコロマテ行ツテヰナイン、且ツ談話ノ内容カ専門的技術的ニワタツテヰナイカラ何處マテ彼カ會議ヲ纏メテ行クカ明確テハナイケレトモ、彼ノソノ態度ニハ少ナカラス僕ハ期待出来ルヤウニ思ハレル。「デヴィス」米代表ハ先年僕カ米国駐在ノ頃「ヤツブ」島問題テ時ノ幣原大使ト屢々会見シテヰタノテ、ソノ頃カラ僕ハ知ツテキルカ當時ハトウミテモ幣原男ノ方カ一枚上タツタトコロカソレカラ年数モタチ人間モ随分出来テキルヤウタ。

僕ハ日本ヲ発ツ時一切通訳付テ日本語テ会談スル。英語テハ喋ラナイトイツテ来タノテソノ通リヤツテ居ル。英國ノ新聞ニハ僕カ寡言タトイツテキルカ「ナーニ」英語ヲ絶対ニ喋ラヌカラタ。トコロカコノ通訳付トイフノハナカ々々イモノタヨ。カヘツテ英米代表ヨリ都合ノヨイコトカイクラモアル。通訳シテキル間ニコ

チラノ返答ヲ十分ニ練ル余裕カアルカラタ。ソレニ僕ハ極大事ナ点ハ一旦喋ツテソノ上紙ニ書イテ一句違ハスソノ通り訳シテクレトイツテ渡シテキル。コレハ非常ニ効果的タカラ今後モ最後マテ統ケルツモリタ。英米側テハマトロコシクテ迷惑カモ知レヌカソレクライ大事ハトルヨ。坊主頭タトイフノテ噂ニ上ツテキルヤウタカ僕ハ大体坊主頭テモムサクルシイ不快ナ感ヲ他人ニ与ヘナイヤウニキチント手入サヘシテヲレハイトイフ主義タカラ今後モ長クシナイツモリタ。尤モ白イ毛モ大分増エテ來タセイモアルカモ知レヌカネ。

山本少将十月二十六日日英第二次会談後ノ談話（連合報）

本日ハ大イニ納得ノイク様ニ技術的方面モ説明ヲ加ヘタカラ日本ノ公明ナ軍縮方針カ大体トンナモノテアルカカ判ツタト信スル。我カ説明ニ対シ数字ノコトモ質問サレタカ日本ノ方針ハ国防ノ安全感ニ必要ナ程度ノ最低限ニ縮減スルト云フノタカラコレカ日本ノ数字タト云フ様ナ数字ハ出サナカツタ。本日午後三時カラ海軍省ニ行ツテ専門事項ヲ「イギリス」側ノ技術家ト更ニ協議スル筈タ。

山本少将十月二十六日日英第二次会談後ノ談話（電通報）

英國側カ我カ提案ニ賛成スルカ否カハ別問題トシ少クトモ我カ提案ノ基礎ヲナス諸原則ニ関スル先方ノ理解ハ本日ノ会談ニヨツテ大イニ深マリ大体我等ノ言ハント欲スルトコロカワカツテ來タ様アル。末タ末タ数字ナトヲ提示スルト云フ段取迄ニハ行カナイ。何セヨ根本精神カ呑ミ込マレヌ中ニソノ精神ニヨツテ編ミ出

サレタ数字ヲ示シタトコロテハシマラナイ話タ。今後モ原則的主張ノ理解ヲ十分完全ナラシメルタメ全力ヲ注ク方針ニ変リハナイ。コノ原則サヘ承認サレハアトノ問題ニ付テハ會議ソレ自身ノ性質ニ鑑ミ妥協モ亦必スシモ不可能テハナイ。

山本少将十月二十六日日英技術委員会終了後ノ談話

日英会商テワカ提示セル諸原則中専門技術家側カ理解困難カラ不安ヲ感スルニ至ツタ諸点ニツキ十分ナル解明ヲ今日ノ委員会テ与ヘルコトカ出来、先方モ満足シコチラモ本懷タ。相当立入ツタ質問モ出テ、コチラモ原則トシテノ範囲テ出来ルタケ詳シク話シタ結果コレニ対スル英國側ノ贊否ハ勿論全然別問題タカ少クトモワカ主張ソレ自体タケハ明瞭ニ理解サレ同時ニ先方ノ言分モハツキリワレワレニ解ツタ。武器ノ進攻的性能ソノ他ノ質的問題ニ関シテモ隔意ナキ意見交換ヲ行ツタカコノ点ニツイテハ日英ノ主張ハ一致ニ近イ所カアチコチニアリ絶大ナル懸隔トシテ驚クヤウナモノハナイコトカ明ラカトナツタ。中ニハ可ナリ意見ノ開キタルモノモナカツタテハナイカ、マツ大体ニ於テ及第点トイフ所タ。英國軍縮案ニ関シテハ我々ハ序論的ナ話カアリステニ幾分カ数字モ示サレテキルカ、日本側ハ依然トシテ原則先決ノ主張ニ基キマタ何等ノ数字モ出シテヰナイシカシソレハ基礎原則ノ完全ナ理解ニ何等妨ケナキモノテアル。英國専門技術家トノ会合ハ大体要点ノ話ハ一段落トナツタ心算タカマタアト一回クライハ開イテモイイト思ツテアリ万事ハ先方トノ打合セ次第タ。

山本少将十月二十七日「ロンドン」ニ於テ対日「ラヂオ」放送

私ハ海軍少将山本五十六テアリマス。目下当地ニ於テ開催中ノ軍縮會議予備交渉ニ尊敬スル松平大使ヲハシメ大使館員海軍委員等ト共ニ重大任務ニ当ツテキマス。

九月二十日ニ私達一行カ東京ヲ出発シタ翌日未曾有ノ台風カ襲来、悲シムヘキ被害ノアツタコトヲ電報テ知リナホ「ロンドン」ニ到着ノ新聞テ見テ想像以上ニ甚シカツタコトヲ知リ遅レ走セ乍ラオ見舞申上ケマス。今回ノ予備交渉ノ成果如何ハ來年ノ本會議ニ及フハ勿論國運ノ消長ニモ至大ノ關係カアルノテワレワレハ和衷協同全力ヲ挙ケテ勵イテキマス。今日マテノ数字ノ交渉テハ簡単ニ予測ハ出來ナイカ前途ニハ幾多ノ困難カアルト思フ。私ハ任務ノ重大ニ鑑ミ松平大使ト協力シ、アセラス騒カス目的貫徹ニ努力シ皆サンノ御期待ニ副フツモリテアリマス。

山本少将十月二十九日日米第二次会談後ノ談話

今日ハ技術的諸点ノ補足的説明以外日本案ノ根本ニ横ハル徹底軍縮ノ大精神ニツイテ大イニ説明ヲ加ヘタ。次ニハ専門委員会ヲ開イテハトノ提案モアツタカ根本原則ヲ置イテ専門家ノ会合テモナク、殊ニ「イギリス」トハ事情モ違フカラ矢張リ本筋ノ会談ヲツツケルコトトシタ。明三十日会フカモ知レナイカ之ニ就イテハ午後打合セスル筈ニナツテヰル。

山本少将十月二十九日日米第二次会談ノ際ノ応答（大毎報）

「軍縮ノ大精神ヲ実現スルタメニハ区々タル数字的ノ問題ニツイテハ自分ハ徹頭徹尾妥協的テアル。アルヒハ諸君ノ想像以上ニ譲ルカモ知レヌ」ト哄笑。「シカシ根本方針ニ関シテハ自分カ代表ヲ勤メテキル間ハ断シテ一步モ譲ラヌ」ト励声一番大キナ釘ヲ刺シタ。

山本少将十月三十一日日米第三次会談ノ際ノ応答（東日報）

「スタンドレー」提督「カツテ「ワシントン」會議テ五・五・三ノ比率ヲ承認シタ日本ハソレ以来今日マテ十年間ノ世界ノ事情ニ五・五・三ノ比率ヲ変更シナケレハナラヌヤウナ変化カアツタ思フカ。ワレラハ何ノ変化モナイト信スル。シカラハ十年前ト同様今日モ五・五・三ノ比率テヨクハナイカ」

山本少将「コノ間ニ大變化カアツタカラコソ変化ヲ主張シテキルノテアル。貴下ハ航空術ノ今日ノ進歩ヲ認メナイカ。日本ノ国情カ當時ト今日テハ一変シテイルコトヲ認メナイカ、海軍軍人トシテ兵器ノ著シイ進歩ヲマサカ否定ハ出来マイ。」

「スタンドレー」提督「ソレニシテモ五・五・三ノ比率テ日本ハ米国カラノ攻撃ヲ十分防御出来ルト思フカ海軍將官タル貴下ノ意向ハ如何」

山本少将「日本カ均等ヲ要求スルノハ実戦ニ於ケル勝敗ノミカラノ主張テハナイ。同シク一等国タル日米両

國カソノ海軍所有量ニ優劣カアルコトハ國民的優劣ヲ示スモノトシテワカ日本國民ノ矜持ヲ傷ツケル。日本ハ國民的矜持ノ上カラコレヲ主張スルモノタ。ナホ戰術上カライツテモ日本カ米国ト互角ノ海軍力ヲ所有シテモ米国カ日本カラノ攻撃ヲ十分防クコトカ出来ル。モシコノ点才疑ヒアルナラ両国同等ノ海軍力ヲモツテ貴下カ日本海軍司令長官トシテ日本艦隊ヲ率ヒテ米国ニ攻メカケテ見テハ如何。予ハ日本ト同等ノ海軍力ヲ有スル米国ノ海軍司令官トシテ貴下ヲ迎ヘテ立派ニ実戦ニ於テ擊滅シテコ覽ニ入レヤウ。タヒ均等トナツテモ米国ハ断シテ日本ヲ恐レル必要ハナイ」

「スタンドレー」提督「御希望トアレハ予モ貴下ノ米国艦隊ヲ壊滅シテコ覽ニ入レル自信カアル」

山本少将「御安心ナサイ。日本案ハ各国ヲシテ攻撃力ヲ失ハシメ單ニ防御力ニ止メヤウトイフノタカラ」

「スタンドレー」提督「日本ハ潜水艦ニ対シテ防御的タトノ解釈ヲ下シテキルカワレワレハ攻撃的ト信スル。貴下ノ意見ヲ伺ヒタイ」

山本少将「潜水艦ノ性能ニツイテハ海軍軍人テアリシカモ年齢経歴トモニワカ先輩タル貴下ハステニ御承知ノコトト思フ。ナルホト潜水艦ハ航続力ハ駆逐艦ヨリハ大キイカ艦内ノ構造カライツテ乗組員ノ生活食糧品貯蔵ソノ他ノ点テ駆逐艦ニ劣ル。従ツテ遠ク敵地ニ出カケテ戦争スルコトハ潜水艦ニハ出来ナイ。コレハトウシテモ近海ニアツテ攻メ寄セル敵艦ヲ防クニ使用スルホカナイ。コレヲ恐レルノハ恰モ闖入者カ押入ラウト思フ家ノ邸内ニ猛犬カキルノヲ恐レテ猛犬ヲケシカラントイフノト似テキル。邸内ノ猛犬ハ埠ヲ乘越サヌ以上カミツカヌカラ闖入者テサヘナケレハコレヲ恐レル必要ハナイ。潜水艦モ同様ウツカリ敵艦

カ近寄ツタラ近海ニキルノテ猛然トカカル。ツマリ近ツキサヘシナケレハ潜水艦ハ攻撃モセス恐レル必要ハナイ。コレカ潜水艦ノ防衛的テアルトイフ理由テアル。一方航空母艦ノ有効ナノハワレラモ上海事変ノ経験テヨク知ツテキル。シカシワレラハコレヲ攻撃的ト認メ犠牲ヲ払ツテマテコレヲ全靡サセントシテキル。コノ犠牲的精神ヲ是非酌ンテモライタイ」

山本少将松平大使十月三十一日日米第三次会談ノ際ノ応答（東朝報）

米代表「五・五・三ノ比率ニ「アメリカ」モ決シテ満足シテ居ナイ。現ニ「アラスカ」、「パナマ」、「フライツピン」等脅威ヲ受ケテ居ル」

山本少将「ソレカ御心配ナラハナホ更日本ノ不脅威案ニ賛成スヘキテハナイカ」

米代表「日本ハ五・五・三ノ海軍テ国民ハ不安トイフカ陸軍ハトウタ。「アメリカ」ハ日本ニ比シ遙ニ劣勢タ

カ「アメリカ」国民ハ別ニ自尊心ヲ傷ケテ居ラヌ」

松平大使「ソレハ隣邦ニヨツテ情勢力違フ上ニ「アメリカ」ノ陸軍ハ別ニ條約テ日本ノ何割ト制限サレテ居ラヌテハナイカ。ソレトモ「アメリカ」陸軍ハ劣勢比率ヲ條約テ定メルコト承知スル氣カ」

山本少将十月三十一日日米第三次会談後ノ談話

米国代表部トノ折衝ハ野球テイヘハマア零対零テ持越トイフトコロタラウ。「ドロングーム」ニナラヌカツ

テ?今カラソンナコトハ解ラナイヨ。何シロ会談ヲ始メテカラマタタツタ十日タ。解ラネハ解ルマテ懇切丁寧ニ何處マテモ説明シテヤルマテサ。「スタンドレー」提督ハトウカツテ?何トイツテモ米國ノ作戦部長タ。終ヒニハ僕カ米國海軍ノ總司令官ニナツテ見タラトウタイトトイフトコロテ別レタヨ。

山本少将十一月六日「ロンドン」ニ於テ米人記者ニ対スル談話

問「停頓セル会商ニ如何ニシテ活ヲ入ルヘキヤ」

答「社交上ノ習慣カラシテモ「パーティ」カ白ケタ場合客ハ主人役ノ方ヘトリナシヲ期待スルノカ普通シヤナイカ」

全般的協定カ出来ナケレハ「イギリス」側ハ協定シ得ル数点ニ関スル三國協定ノ起草ヲ提議スルカモ知レナイトイフ噂ニツイテハ

「全体ノホンノ一部ニ過キナイ事項ニ関スル協定ニ参加スルコトハ日本トシテハ困難テアル。何故ナラハ日本ハ國際關係ヲ改善シ戰争ノ危険ヲ最少限度ニ減少スル為ノ広汎ナ協定ヲ欲スルカラテアル」

会商カ決裂シタ晚ニハ「アメリカ」ハ日本カ軍艦三隻ヲ建艦スル間ニ五隻ヲ造ツテ対抗スル用意カアル

「会商カ決裂シタ晚ニハ「アメリカ」ハ日本カ軍艦三隻ヲ建艦スル間ニ五隻ヲ造ツテ対抗スル用意カアル言フヤウナ新聞記事ト見タカ決裂シテモ日本ハ「アメリカ」ト建艦競争ヲスル氣持ハ全然ナイコトヲ断言

シテ置ク。「アメリカ」ノ方カラ競争ヲ仕向ケテ來タラ日本ハトイフ態度ヲトルカニツイテハ今何トモ言
ヘナイカ兎ニ角日本ノ海軍政策ハ地理の情勢ニ照ラシテ最モ適切ナ防御法即チ不脅威不可侵ノ方策ヲ樹立
スルノカ根本原則テアル。尚日本政府ハ予備会商ノ成行如何ニ拘ラス本年中ニ「ワシントン」条約廢棄ノ
通告ヲナス考ヘテアル。仮令予備会商カ成功シタトコロテ明年ノ本會議テ新條約カ締結サレルコトハ必ス
シモ保証サレルトハ限ラナイカラテアル。

山本少將十一月六日「ロンドン」ニ於テ米国合同通信社記者二対スル談話（委任
統治ニ関シ）

日本ノ海軍モ陸軍モ委任統治諸島ニ國際協定ニヨツテ禁止サレテキル種類ノ如何ナル設備モ施シテヰナイコトヲ余ハ断言スル。我カ南洋庁カ委任統治諸島間及ヒ同地トノ連絡ヲ目的トスル定期飛行ノ為着陸地ヲ造ルコトハ以前カラ始メテキルカ、コノ飛行ハ民間ノ営利的企業テアツテ國際協定ニ抵触スルモノテハナイ。余ハ同地方ノ飛行ニ閑シ将来如何ナル規則カ出来ルカハ知ラナイカ、個人トシテハ航空路カ開放サレタ暁ニハ外国人ノ飛行ヲ禁止スヘキ理由ハナイト考ヘル。委任統治委員会テハ日本カ何カ同地ニ秘密ヲ持ツテキルカノ如キ質問カ發セラレタカ日本ハ何モ隠シテヰナイ。又日本ノ法律ノ如何ナル規定モ外国人ノ同地訪問ヲ禁止シテヰナイ。現ニ數名ノ外国人ハ同地ヲ訪問シテキル。(コノ点ニ閑シ溝田通訳官ハ「イギリス」ノ退役陸軍少佐「ボドレー」氏カ我カ委任統治諸島各地ヲ旅行シ、要塞ヤ根拠地ノ如キモノハ發見シナカツ

タコト並ニ「アメリカ」ノ「クライド」教授カ昨夏二ヶ月ニ亘ツテ同地ヲ巡回シタ付言シタ。昨年春日本海軍ハ日蝕観測ノ科学者一行ノタメ軍艦春日ヲ提供シタ。「アメリカ」ノ学者モ一行ニ参加シテ我カ委任統治ノ地テ観測ヲ行ツテ居リコノ事実ニ徵シテモ日本カ外国人ノ訪問ヲ禁止シテヰナイコトハ明カテアル。

山本少将十一月七日日英第四次会談後ノ談話

今日ノ会談テハ「マクドナルド」首相カラ局面打開ニ資スル見込ミアル案ヲ片端カラ研究シテ見ヨウテハナ
イカトノ話カアリ、前回ニ引続キ色々審議ヲ進メタカ別ニ取り立テテイフ程ノコトハナイ。又來週アタリ会
談ヲ遂ケルコトナルヘク、コノ調子テ當分話カ続クタラウ。マタ々々会談カ始マツタハカリタカラオイソ
レトハ行カヌ。

山本少將十一月八日「ロンドン」ニ於テ新聞記者二対スル談話（英國ノ新提案ニ
關シ）

英國ノ言フ処ハ案トカ何トカ言フモノテハナイ。的確ニハ無論言フ訳ニハ行カナイカ要スルニ得体ノ知レヌノタ。後テ海軍省ヘ行ツタノモソノタメタカ今迄ノ所トシテモ話ニナラヌ。マタ々々コレカラタ。色々又出テクルタラウ。何カ出テモコチラノ肚ハ決ツテキルカラ馬鹿ニサレタトモ思ハヌシ動キモシナイ。要スルニ守ルタケノ事ハトンナ事カアツテモ守ル迄タ。

山本少将十一月十日「ロンドン」ニ於テ新聞記者ニ対スル談話

「イギリス」側カラ話ヲ聞イタ時カラ肚ハ決マツテキル。コノ程度ノコトテ誰ニ相談スルトカ指図ヲ受ケルコトモナイ。唯國際上ノ礼讓トイフモノカアリ、又日本ノ主張ニ近ツケル最善ノ方法ヲ選ハネハナラヌカラ問題ハソレタケタ。ソレモ十分ニ動カヌ方針ハ出来テキル。

山本少将十一月二十日「ロンドン」ニ於テ外人記者團ニ対スル言明

日本政府ノ軍縮提案ハ世界ノ平和ヲ促進セントスル真摯ナ希望ニ基クモノテアルカ、若シ英米両国カトウシテモ日本政府ノ提案真意ヲ了解出来ス右提案ヲ基準トスル海軍力ノ量的制限カ失敗ニ終ル場合ニハ日本政府ニ於テ質的制限ニ関スル如何ナル協定ニモ応スルコトハ絶対ニ不可能タ。若シ日本政府ノ提案カ容レラレヌ場合ニハ日本政府トシテハ独自ノ見解ニ基イテ自國ノ国情ニモツトモ適シ同時ニ最モ經濟的ナ艦艇ヲ建造シ日本ノ国防計画ヲ遂行セネハナラヌ。勿論日本政府ハ他国カ既ニ所有シテキル艦種ヲ大量ニ建造シ建艦競争ニ從事スル意図ハ毛頭ナイ。併シ若シ主要海軍国カソノ厖大ナ海軍力ノ縮減ヲ肯シナイ場合ニハ独リ手ヲ拱イテ取残サレル訳ニハ行カヌ。日本政府ニ残サレタ唯一ノ途ハ比較的建艦費ノカカラヌ艦種ヲ建造スルタケタ。

松平大使十月二十二日「ロンドン」ニ於テ日英会談ノ前日ノ談話

今度ノ海軍予備交渉ノ目的ハ本會議ノ地均シニ関係国カ胸襟ヲ開イテ率直ニ意見交換ヲナスニアリ、問題ノ性質カ極メテ重大テアルノテ余モ責任ノ大ナルヲ痛感シテ居ル。余ハ山本少将ト十分協力シ海軍モ外務モ國家ノタメ一意一体トナツテ極力目的ノ貫徹ニ努メル決心テアル。先ツ日英会談カ明日カラ始マルカ一回ノ会見テ總テヲ尽シ決定ニ至ル訳テナク双方徐々ニ意見ヲ交換シ協定ノ基礎ヲ見出スコトトナラウ。余モ微力ナカラ誠心誠意山本少将ソノ他トトモニ協定ノ基礎発見ニ努力スル心算テアル。

松平大使十月二十三日「ロンドン」ニ於テ日英第一次会談後ノ談話

今回ノ会談ハ從来ノ会議ノ形式トハ異リ膝ヲ突合セテ懇談スル形式ヲ取ツタ。「マクドナルド」首相ノ歓迎ノ挨拶及ヒ英國ノ軍縮ニ関スル方針ニツキ概括的ナ話カ済ンテカラ余ハ日本側ノ新軍縮案ノ要点ヲ説明シタ。併シソノ内容詳細ハ「コムミニュニケ」以外一切發表セヌコトニ申合カ出来テ居ルカラ何トモ申上ケラレナイ。日本代表部ハ明日（二十四日）「アメリカ」側ト会見スル。併シ我カ方針トシテハ最初主トシテ「イギリス」トノ間ニ話ヲ進メテ行キ度イト思ツテ居ル。

松平大使十月二十四日「ロンドン」ニ於テ日米第一次会談後ノ談話（連合報）

本日ノ会談テハ昨日ト同シク米国ニ我カ根本方針ヲ十分説明シタ。会談ハ終始友好的空氣ノ裡ニ進ンタカ話ノ内容ハ矢張リイヘヌ。然シ日本ノ政策ハハツキリシテ居ルカラ想像ニ任セル。

松平大使十月二十四日「ロンドン」ニ於テ日米第一次会談後ノ談話（電通報）

本日ノ日米初会商ニ於テハ昨日ノ対英初会商テ述ヘタノト同シ程度テ日本案ノ要点ヲ話シタ。ソノ後テ「アメリカ」側カラ種々質問カ出タノテ之ニ対シテ私ト山本代表カ草稿ヲ敷衍シテ応答シ可成リ詳細ニワタツテ話シ合ツタ。会談ノ内容ハ発表シナイコトニ双方申合セタカラココニ発表ノ自由ヲ有シナイ。ナホ「アメリカ」側ハ主トシテ「ティヴィス」代表カ發言シタ。

松平大使十月二十六日「ロンドン」ニ於テ日英第二次会談後ノ談話

二十六日ノ会談テハ前回ニ引続キ我カ方カラ各種ノ重要点ニツキ説明ヲナシ意見ノ交換ヲ行ツタ。今回ハ前ノ会談ヨリ更ニ細カイ点ニ入ツタコトハ事実タカ内容ハイヘナイ。英國側カラ円卓會議ノ提議ナトハナカツタ。友好的ニ水入ラスノ会談ヲ行フトイフノカ今回ノ会談ノ建前タカラ二国間ノ交渉カ一番ヨイト思ツテ居ル。随ツテ今後モ続イテ二国間テ話ヲ進メルツモリタ。

松平大使十月二十七日「ロンドン」ニ於テ対日「ラヂオ」放送

今回ノ海軍予備交渉ハ関係国ニ於テ互ニ率直且隔意ナキ意見交換ヲ行ヒ各自ノ主張乃至立場ヲ明カニシ来年開カルヘキ本会議ノ基礎ヲ作ラントスルノテアリマス。只今ノ処交渉ハ日英、日米及英米ノ間ニ行ハレテ居リ、「フランス」及「イタリー」ハ未タ参加致シテ居リマセン。交渉ノ経過ハ普通ノ国際會議ト異ツテ居リマヌタメ、又極メテ機微ナル關係ヲ有シテ居リマヌタメ交渉ノ内容ハ各國トモ発表セヌコトニナツテ居リマス。従ツテコノ機会ニ今日迄ノ交渉ノ成行ヲオ話スルコトノ出来ヌノハ遺憾テアリマス。交渉ノ将来ニツキマシテハ今俄ニ予断ヲ許シマセンカ帝国政府ノ方針ハ極メテ明瞭テアリマシテ海軍ト云ハス、國民ト云ハス一心同体トナツテ我帝国ノ目的達成ニ最善ヲ尽ス覺悟テ御奉公致シテ居リマス。勿論本交渉ノ途上ニハ幾多ノ迂余曲折カアルト思ハレマスカトウソ同胞諸君ニオカレマシテハ冷静ナル態度ヲモツテ我カ目的ノ達成ニ御後援アランコトヲ切ニオ願ヒシテ置キマス。

松平大使十月二十九日「ロンドン」ニ於テ日米第二次会談後ノ談話

本日ノ会談テハ前回ニ続キ我カ方針ヲ更ニ十分説明シタ。内容ハ「イギリス」ニ説明シタト同シテ別ニ変ツタコトナク、コレテ「アメリカ」ニモ我カ真意ヲ徹底シ得タト信スル。

松平大使十月三十一日「ロンドン」ニ於テ日米第三次会談後ノ談話

今日ハ「アメリカ」代表ト一層詳細ニ亘ツテ技術的方面ニ立入ツテ意見交換ヲ行ツタ。ソノ結果日本案ハ一層ヨク理解サレ又「アメリカ」側ノ立場モコチラヘヨク判ツタ。唯困ツタコトハ各問題ニ付依然トシテ見地カ全然違ヒ今日ノ話合テソノ相違カ益々ハツキリシテ來タ。会商ノ今後ノ困難ハ主トシテココニアル。アラユル打開ノ努力ヲ続ケルコトハ勿論タカ前途ハ決シテ樂觀ヲ許サナイ。「イギリス」側トモヨク話合ヲシテ急カス着々折衝ヲ続ケル心算タ。

松平大使十一月十九日「サイモン」外相トノ会見後ノ談話（電通報）

今日「サイモン」外相ヲ訪ネタノハ去ル七日「イギリス」カラ日本代表部へ表明サレタ提言（「サジエスチヨン」）ニ付本国政府ト打合セ中テアツタトコロ返電カソロツテ東京ノ意向カ判明シタカラコレヲ正式ノ会商テ披露スル前ニ相互ノ立場ノ理解ヲ出来ルタケ充分ニシテオキタイト云フ希望カラ二人タケノ間テヨク話シ合ツテ置カウト云フ意味テ会ツタ訊タ。從ツテ議論ヲシタ訊テハナク意見ヲ述ヘ合ツタタケテアル。然シ我主張ハ平等權ニ付決シテ名義上ハカリテナク現実ニ完全性ヲ要求スルト云フ建前テアリ、コレ等日本案ニ付テハ未タ先方ノ意見ノハツキリシテヰナイ点モアツタノテ色々ノ質問ヲシテ先方ノ考ヘヲ確メルコトニ努メタ。

コンナ意味ノ会商タツタカラ正式会商ヲ何時開クカハ未タハツキリシナイカ、勿論サウ遅ラスヘキモノテモナク、「イギリス」側テ協議後ソノ都合次第テ間モナク決メラレルコトニナルタラウ。

松平大使十一月十九日「サイモン」外相トノ会見後ノ談話（連合報）

日英両国代表部ノ全員會議ニ先立チ予メ「サイモン」外相ト会見、本国政府ノ訓令ニ基キ帝国政府ノ主張ヲ再説スルト同時ニ英國政府ノ意向ヲモ聴取シタ。英國政府カ日本ノ国家的体面ヲ尊重シ原則的ニ軍備均等ヲ承認シヨウト言フノハ多トルカ帝国政府トシテハ現実ニ海軍力ノ均等ヲ達成スル權利ヲ確保スルコトヲ建前トシテ居リ、從ツテ英國政府ノ議案ヲソノママ受諾出来ヌノハ言フ迄モナイ。然シ會議カ今後トウ展開スルカハ今俄カニ何トモ言ヘナイ。

松平大使十一月二十一日「サイモン」外相トノ第二次会見後ノ談話

軍縮トハ別ニ日英ノ国交ニ関連シ、海軍交渉ハコレニ悪影響ヲ及ホサヌ様総テノ見地カラ話ヲ進メテキル。海軍交渉ノ緒論ハ終ツタ。コレカラハ山本代表ニヤツテ貰フ。

松平大使十一月二十二日「クレギー」参事官ト会談後ノ談話

仏国大使「コルバン」氏ト会ツタノハ情報交換ノタメテ外務省ヘハ手続ノ打合セニ行ツタ。兩者ノ間ニハ何

ノ関係モナイ。唯次ノ会談日取ハ決定シテヰナイ。

斎藤大使十月十日夜東京ニ於テ帰任ノ前夜ノ談話(一)

久シ振りニ帰朝シテ日本ヲ始メ満州、支那ノ実情ヲ視察シ又各方面ト意見ノ交換ヲ行ツタカ結論トシテ痛感シタ事ハ「日本ハ益々偉大ナ発展ヲ遂ケツツアル」トイフ事ト満州國ノ予期以上ノ發展トテアル。一部欧米人ハ日本ノ政府ハ軍閥獨裁ニヨツテ動イテヰルカノ如キ言動ヲナス者カアルカ、忠君愛國ニ依ツテ結ハレテヰル日本テハ軍閥ナルモノノ成立ハ不可能タトイフ確信ヲ固メタ。又満州國ノ發展ハ日米親善關係ノ促進ニ拍車ヲカケルモノト信スル。

軍縮會議ニ対シテハ自分モ「ワシントン」テ出来ルタケノ側面的工作ヲ施ス積リタ。自分ハ會議ノ前途ニ対シ必スシモ悲觀的觀測ヲ持タヌ。然シ困難ハ対米關係ヨリモ寧口對英關係テハアルマイカ。

本年三月交換サレタ広田、「ハル」文書ニモ明カナ如ク日米間ニハ外交の手段ニヨリ解決スル事ノ困難ナ問題ハ存在シナイカ、自分ハ右文書ニ示メサレタ精神ヲ具体化スル事モ必要ト思フカラ帰任ノ上ハ太平洋ノ平和機構ノ確立ニ就キ「ハル」長官ト意見ヲ交換シ度イト思フ。日米貿易ハ良ク平衡カ取レテ居リ通商上ニオイテモ両国間ニ何等問題ハナイ。

滿州事變以来ノ日本ノ經濟的政治的發展ニ対スル脅威カラ日本ヲ動カス「文化」ヲ研究シテ見ヨウトイフ考へカ米人ノ間ニ盛テアルカ、コノ氣運ニ乘シ近ク「ニューヨーク」ニ設立サレル日本文化協會ト協力シテ文

化外交ヲ施スツモリタ。「アリゾナ」ノ邦農排斥問題ハ米國ノ連邦及ヒ地方政府ノ適當ナル措置ニヨリ近ク解決スルモノト思フ。移民問題ニ就テモ自分カラ積極的行動ニ出ル考ヘハナイ。桑港着ハ二十四日トナルカ同地到着ノ上ハ「ロサンゼルス」「シャトル」ヲ始メ西「アメリカ」各地ノ領事館ヲ同地ニ招集シテ會議ヲ開キテ外務省ノ方針ヲ伝達シ打合セラ遂ケタ上、「ワシントン」ニハ軍縮予備會議ノ開始サレル十月末又ハ十一月初旬迄ニ帰任スル積リテアル。

斎藤大使十月十日夜東京ニ於テ帰任ノ前夜ノ談話(二)

今回ノ帰朝テ自分ノ最モ感激シ且ツ最モ力強ク感シタノハ事ニ当ツテ日本國民ノ一致團結ノ結束テアリ、一定ノ方向ニ差向ケラレタコノ強イ意志ノ力テアル。コノ意志力ノ當然ノ結果ハ立派ナコノ満州國ノ建国躍進振リトナツテ具体化シテヰルトイフコトカ出来ル。自分ハ満州視察旅行テソノ事實ヲコノ眼テ見テ來タ。コノ事実、連盟加入國ノ全部力擧ツテ承認シテ又滿州國ノコノ健全ナ發達振りカ自分ノモタラス米國ヘノ一番イイ土産タト思ツテヰル。東亞ニ於ケル日米ノ關係ニハ確カニ何等解決困難ト思ハレルヤウナ問題ハ存在シテヰナイ。コノ際ニ自分カカウイフ土産ヲ持ツテ米國ヘ帰ルトイフコトハ非常ニイイ結果カ予想サレテヰルノタ。米國ノ望ムトコロマタ東亞ノ安定平和テアツテミレハ満州國ノ確實ナル歩キ振りハ確カニ米國ノ喜ヒテアツテイイ筈タ。次ニ帰朝以来事ニ質問サレカツ自分自身モ當面ノ最大ノ問題ノ一トシテ考ヘテヰル海軍軍縮問題テアルカ、「ロンドン」予備会商ニ帝國カ提案スル軍縮新方針ナルモノハステニ全世界ニ普

及セラレテキル如ク極メテ公正妥当ナルモノテ軍縮ソレ自身ノ真目的ニ各国カ徹底スルナラハ帝国ノコノ提案ニ対シ決シテ反対スヘキ何等ノ根拠モ存在シナイコトヲ確信スルモノテ米国トテコレヲ真向カラ反撃スヘシトハ予想シタクナイ。シカシ帝国政府ノ軍縮根本方針ニ関シ懇切ナル説明ヲ与ヘ誤解ヲ解クコトハ自分ノ使命テアルカラ「ワシントン」テハイワユル軍縮側面工作ノタメ最善ヲ尽ス覺悟テアル。

斎藤大使十月十一日横浜出帆ノ際ノ談話

「ロンドン」予備交渉ニ臨ム帝国政府ノ新軍縮方針ハ徹底シタ軍縮ヲ実現セン事ヲ企図スルモノテアル。從ツテ欧米各國カ真ニ軍縮精神ニ徹底シ同時ニ日本ノ東亞ニ於ケル地位ヲ認識スルナラハ当然日本ノ方針ヲ諒解シ相對的ニ各國ノ現在保有スル兵力ヲ徹底的ニ縮減シ得ヘキ性質ノモノト思フ。自分ハ帰任後「ロンドン」交渉ノ推移ト相呼応シテ日本ノ全軍縮案ヲ諒解セシムルタメニ努力スル。「アメリカ」カ日本ノ軍縮方針ヲ理解スルニ当リ最モ困難ナ点ハ日本ノ軍縮案ニ含マレタ平和的方針ヲ積極的ニ理解スルカ否カノ点ニ存スル。軍縮問題ノ解決カ困難ナ点ハ「イギリス」カ仏、伊両国ノ如キ政情複雜ナル國家ヲ控ヘテキルコトニアル。若シ日本カ単独ニ米国ト折衝出来ルモノトスレハ海軍問題ノ解決ハカヘツテ容易テアル。自分ハ予備交渉ノ前途ヲ悲観セス成立ニ向ツテ努力スル。

斎藤大使十月二十四日「サンフランシスコ」到着ノ際ノ談話

滿州國ヲ米国ニ紹介スルコトハ日米親善上最モ有意義ナコトテ今ヤ滿州國ノ發達ハ世界ノ幸福ヲモタラスコトヲハツキリ約束シツツアルノテ自分ハ今回ノ見聞ヲ十分米国人ニ知ラセタイト思フ日米両國間ニハ政治的ニモ經濟的ニモ何等反目シナケレハナラヌ理由ハナク軍縮問題ニツイテハ今ハ余リ多ク語ルヲ好マヌカ万一会議カ決裂シテモ滿州ヘ軍艦ヲ送ル程ノ国ハナイト信スル。

斎藤大使十月二十四日「サンフランシスコ」上陸後新聞記者トノ問答（電通報）

問「今後ノ対米方針ハ如何」

答「日米間ニハ何モ問題ハナイ。海軍問題タツテ要スルニトチラノ劍カ長イカ短イカノ争ヒテ長イ方ノヲ短カクスレハ納ル問題タ」

問「海軍會議ハ纏ルタラウカ」

答「ソレハ纏ルタラウ。少クトモ吾々ハ纏ルヤウニ努力スヘキタ」

問「海軍會議カ決裂シタラ如何」

答「戦争ナドニナル理由ハナイ」

問「戦争ニハナラストモ建艦競争ニナツタ場合ハ如何」

答「建艦競争ナンカニナリツコナイ。「アメリカ」タツテ無暗ニ軍艦ヲ造ル訳ニハ行カヌ。「アメリカ」ニモ痛イ所ハアルサ。」

問「日米両国カ滿州國問題ヤ支那問題テ衝突スル場合ハ如何」

答「其ノ時ハ一撃ヲ加ヘルマテサ」

斎藤大使十月三十日「ワシントン」ニ於テ新聞記者二対スル談話（連合報）

日本帝国ハ他ノ何レノ國家トモ均等ナ地位ヲ要求スルカラ海軍力ニツイテモ世界ノ最強国ニ匹敵スル海軍力ヲ要求スル。具体的ニイヘハ日本国民ハ英米両国ト現実ニ均等ノ戦闘力ヲアクマテ要求スルモノタ。日本国民ハ世界ノ現状ヲ攪乱シヨウトイフ意図ハ毛頭抱イテヰナイ。夕々今後數年間ニ攻撃的艦艇ヲ漸進的ニ廃棄シカクシテ結局英米両国ノ海軍力カ日本海軍力ト均勢トナルコトヲ要求スルノタ。日本代表カ「ロンドン」ニオケル予備会商テ主張シテ居ルノハコノ日本全國民ノ不動ノ信念ヲ端的ニ表明シテヰルニ過キナイ。但シ攻撃的兵力ノ縮減ニ要スル期間並ニソノ限度ハココニ言明ノ限りテナイ。

海軍予備会商乃至ハ一九三五年ノ海軍縮少本會議カ失敗ニ終ルトハ思ハナイ。日本国民ハアクマテ友好的ナ解決カ可能タト確信シテヰル。但シ仮ニ海軍縮少會議カ失敗ニ終ツテ日本国民カ建艦競争ヲ押付ケラレルヤウナコトトナレハ全國民ハ拳固一致政府ノ建艦計画ヲ支持スルテアラウ。国防均等ノ原則ヲ確保スルタメニハ日本国民ハ上下一致欣然各自ノ財政的重荷ヲ負担スル覚悟タ。日本並ニ日本国民ハ海軍力ニ関スル現行ノ

差等比率ヲ以テ自國國家ノ尊嚴ヲ冒瀆シタ制度ト考ヘテ居リ、比率主義ハ一切受諾出来ナイ。

斎藤大使十月三十日「ワシントン」ニ於テ新聞記者二対スル談話（読売報）

日本政府ハ英米両国トノ間ニ均等ノ海軍勢力ヲ保持スルコトヲ主張シテヰルカソレハ直ニ明日カラ同量ノ海軍力ヲ持タネハナラヌトイフ意味テハナイ。但シソノ原則ノ承認ト終局ニオケル均等勢力トハ絶対ノ主張テアリ海軍力ニ関スル協定ハコノ方向ニ進行スルモノテナケレハナラヌ。而シテ三国海軍カ均等勢力トナルニ要スル期間ハ技術的ニ専門家カ協議スヘキ事項ニ属スル。均等ニスル方法ハ軍縮ノ大精神カラ見テ日本海軍力ノ増加ニ依ルノテハナク、英米両国海軍力ノ遞次的引下ケニ依ルヘキテアルコトハ当然テアル。ソノ最善ノ方法ハ恐フク三国カ共同シテ遞次的ニ引下ケヲ行ヒ相当ノ期間後ニ均等勢力トナスコトテアラウ。日本ハ「ワシントン」条約及ヒ「ロンドン」条約ノ如キモノノ締結ニ必シモ反対スルモノテハナイカ将来ノソレハ日本ノ均等ノ原則カ認メラレタモノテナケレハナラヌ。将来ノ制限方式ニツイテハ日本ハ總「トン」数主義ヲ希望シテヰル。

斎藤大使十月三十日「ワシントン」ニ於テ新聞記者二対スル談話（日日報）

「ロンドン」予備会商ニ於ケル山本代表ノ要求ニヨツテ明カニサレテヰルカ如ク日本ハ均等ノ保有總「トン」数ヨリ低イ保有量テハ満足シナイ。日本カ均等ヲ固執スルナラ米国ハ太平洋ニオケル領土ニ防備施設ヲ施ス

テアラウカコノ問題ハ「ワシントン」条約カ締結サレタ當時ト比ヘテ左程重要ナモノテハナイ。

斎藤大使十一月十五日「ワシントン」ニ於テ「ハル」國務長官ト會見後、新聞記者團ニ対スル談話

海軍力均等要求ニ関スル日本政府ノ主張ハ不動ノモノテアル。世上日本ノ右均等要求ニ對シ種々ナ批判ヲ加ヘルモノモアルカ海軍力ヲ一律ニ最少限度迄縮小スヘシトスル日本ノ主張ヲ十分ニ諒解スルナラハ米國ノ反對論モ緩和スルテアラウ。蓋シ日本案ヲ諸國カ實現スルコトニナレハ各國海軍ハ主トシテ國際的警察力トモ言フヘキモノトナリ侵略トカ脅威トカ云フモノハナクナル筈ナノテアル。滿州國石油問題ニ關シテハ日本ハ滿州國ト米國トノ間テ仲介ノ労ヲトル用意ヲ有シテ居ルカ右ハ米國ニ對シ滿州國ノ承認ヲ強要セントスルモノテハナイ。併シ日本トシテハ滿州國カ嚴然タル獨立國テアルコトヲ真摯ニ確信シテコレヲ基礎トシテ外交上ノ行動ニ出ルタケノコトアル。

自昭和九年十一月一—十三日
至昭和十年一月五日

軍縮問題ニ關スル帝國代表及在外使臣ノ
新聞記者ニ為セル談話 第二輯